

20の リレートーク



三浦 言枝さん

出身地 白石
現住所 大阪府

◆今の私

私が地元を離れて2年経ちました。大阪という環境にも慣れて、社会人として働いています。夢に一步步近づいたことで次への目標が生まれたと思います。

私は、一生に一度の成人式に参加できませんでした。友達に会えなかったことは残念でしたが悔いはありません。社会人1年目で手にした仕事は、2年目のステ

ップアップになるのです。そう考えたら、選択は間違っていないかと思つていきます。続けていきたい職業だから少しでも身になることをしていきたくつたのです。ちなみに職業は料理人です。まだまだ下っ端で雑用ですが、好きなことをするのは楽しいです。

今年で20歳という節目になりました。幼い頃に描いていたものとは少し違いますが、大人になりました。自分の道も創れるようになり、夢にほんの少し近づけたのです。ですから私は、次の夢を失わないように大きな未来を考えています。もらつより贈るほうが好きだから、そんな自分になると心に誓おうと思つています。



こころの ぽけっと



保育所雑感

「保育所を早くつくらないと」との強い思いで開所したのが3年前。「入る子どもがいるの?」、「家で面倒をみるべき」、「親の責任、家の役割放棄につながる」などいろんな声の中のスタートでした。もちろん、そのような声は今でも聞かれます。開所時に11人だったのが、途中0歳児保育も加わり、今では35人36人となり、場所が狭いため申し込みを断らなければならない状況です。

朝の7時15分から夜の7時まで子どもを預けられる…家庭で面倒をみれるのにこしたことはありません。諸事情によってどうしてもそれが無理な方もおられるので、保育所

は「時代の要請」と言って良いでしょうか。

もし、保育所がなかったら、かなりの方が途方に暮れたり、職を辞めたり、または村外に移り住んだりということになっていたかもしれない。そう考えると、もっと早く保育所を開所しておけばよかったなとさえ思います。

家庭で面倒をみるという理想と、みれないという現実の姿とをしつかり見据え、現実の姿に対処しながら理想を追うという形にしないとますます人口が減り、結婚難も解消されず、過疎が進み、生活も苦しくなっていくことも考えられます。

保育所の入所式での、お父さん・お母さんのホツとしたような顔を見るにつれ「保育所をつくっておいて良かった」という思いと、「子どもを預けている親としての心がまえも大切ですから、よろしくね」との思いを一層強くした次第です。

平成16年4月26日

飯館村長 菅野 典雄